

機関番号：12501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010 年度

課題番号：20592621

研究課題名（和文） 高齢者のエンパワメントに着目した介護予防活動の評価に関する研究

研究課題名（英文） A Study on a Qualitative Evaluation for Preventive Care Programs for the Elderly- Focused on the Empowerment of the Aged-

研究代表者

佐藤 紀子 (SATO NORIKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・准教授

研究者番号：80283555

研究成果の概要（和文）：

地域において実施されている介護予防活動を、高齢者のエンパワメントの観点から質的に評価し、かつ効果的な介護予防活動の展開を方向づける評価指標を開発することを目指す。

本研究では、その目的を追究するために、まず先行文献より、高齢者のエンパワメントの定義、構成要素、影響要因、評価方法を整理した。次いで、2 自治体で実施している 3 つの介護予防プログラムの主担当保健師 5 名と、プログラムに継続的に参加した高齢者 20 名に対しインタビュー調査を実施し、参加高齢者のエンパワメントに影響を及ぼした支援内容と参加高齢者の高められたエンパワメントを質的帰納的に分析した。それらの結果と先行文献の結果と照合させ、介護予防プログラムをエンパワメントの観点から評価するための指標を検討した。

研究成果の概要（英文）：

This study aimed to develop a qualitative evaluation for preventive care programs for the elderly focused on the empowerment.

First, we clarified a definition of empowerment for the elderly, components, influence factors, evaluation methods by literature reviews.

Subsequently, we identified specific aspect of support that have had an impact on the empowerment of elderly people participating continuously in preventive care programs implemented in communities, and changes in empowerment of participants.

Finally, we considered evaluation items for preventive care programs for the elderly focused on the empowerment through collating these results with the results of literature reviews.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：地域看護学

科研費の分科・細目：看護学（地域・老年看護学）

キーワード：介護予防，高齢者，エンパワメント

1. 研究開始当初の背景

わが国では、2006年4月に「予防重視型のシステム」への転換を柱として介護保険法が改正された。「明るく活力ある超高齢者社会」の実現に向けて、高齢者の生活の質を高める介護予防が求められるなか、高齢者のエンパワメントを高めていくことは重要と考える。エンパワメントとは、「自己の生活をコントロール・決定する能力を開発していくプロセス」¹⁾であり、この力は自身だけでなく環境にも発揮されるものである²⁾。単に、高齢者の心身機能の衰弱や生活機能の低下を予防するだけではなく、その人らしく生活していくための力となるエンパワメントを高めることによって、周囲の同世代の人たちにも目を向けるようになり、共に住み慣れた地域で生活するためにできることを見つけるといったまちづくりへと発展していく可能性があるからである。

介護予防に関する先行研究では、これまでに高齢者の実態調査、対象者のスクリーニング方法の検討、介護予防事業の効果・評価、介入研究といった多様な観点から研究が進められてきている。しかし、介護予防を高齢者のエンパワメントの観点からは、十分に検討されていない。

地域では、運動機能や栄養状態、口腔機能、認知症・情緒面の改善を目的としてさまざまな介護予防プログラムを提供し、実践者は、参加した高齢者が生き生きとしてきた、仲間ができたといった効果を捉えている^{3)~4)}報告はみられるものの、成果の検討はほとんど行われていない。そのため、介護予防活動の効果、高齢者のエンパワメントの観点から質的に評価する指標および評価方法を開発する必要性は高い。

2. 研究の目的

地域において実施されている介護予防活動を、高齢者のエンパワメントの観点から質的に評価し、かつ効果的な介護予防活動の展開を方向づける評価指標を検討することを目指す。

本研究では、その目的を追究するために、まず、高齢者のエンパワメントを評価する指標の枠組みを文献検討により検討し、それを踏まえて現地域で実践されている介護予防プログラムの実態を調べることを通して、介護予防活動を高齢者のエンパワメントを質的に評価するための指標を検討した。

3. 研究の方法

まず研究1を実施し、次いで、研究2と研究3を実施し、研究1の結果と研究2および3の結果を照合して、評価指標を検討した。

(1) 研究1：高齢者のエンパワメントを評価する指標の枠組み作成のための文献検討

①研究対象

医中誌WEB版を用い、「エンパワメント or エンパワーメント」に「地域」「保健師」「健康」「評価」を掛け合わせ1998年～2008年までの10年間の文献を検索し、433件の文献を抽出した。さらに、エンパワメントに関する定義、構成要素、影響要因、評価方法のすべて、もしくは、いずれかが詳細に記述されている文献を抽出し、国内14文献を分析対象とした。

②方法

分析対象文献から、高齢者のエンパワメントに焦点を当て、その定義・構成概念・影響要因・評価方法に関する記載内容を抽出し、項目ごとに整理した。

さらに、エンパワメントの構成要素と影響要因の関係性を分析した。

(2) 研究2：介護予防プログラムにおけるエンパワメントに影響を及ぼす支援内容

①研究対象者

2自治体で実施している3つの介護予防プログラムの主担当保健師5名およびそれらのプログラムに継続的に参加した高齢者20名

②方法

主担当保健師に対しては、プログラムの実施内容、意図、それに対する参加者の反応等について、また、参加高齢者に対しては、参加動機や参加中の経験等について聴取した。聴取内容より、参加高齢者のエンパワメントに影響を及ぼした支援内容を質的帰納的に分析し、その特徴を見出した。

(3) 研究3：介護予防プログラムにおける参加高齢者のエンパワメントの高まり

①研究対象者

研究2と同じ介護予防プログラム参加高齢者20名

②方法

参加動機や参加中の経験等について聴取した内容からどのようなエンパワメントが高められたのかの観点から質的帰納的に分析し、介護予防プログラムにおける参加高齢者のエンパワメントの高まりを見出した。

(4) 高齢者のエンパワメントに着目した介護予防活動の評価指標の検討

研究1で作成した高齢者のエンパワメントの指標の枠組みと、研究2および研究3の結果を照合し、高齢者のエンパワメントの観点から評価する介護予防活動の評価指標を検討した。

なお、研究2, 3については、研究代表者の所属機関の倫理審査委員会による承認を受けて実施した。

4. 研究成果

(1) 研究1

① 高齢者のエンパワメントの構成要素

高齢者のエンパワメントのプロセスには、「i 加齢によるパワーレスの状態」、「ii 自身を客体視し自己の課題と可能性に気づく」、「iii 自尊心の回復」、「iv 新しい価値観の獲得」、「v 課題解決への動機づけ」、「vi 生活行動の変容・社会とのつながりの拡大」、「vii 役割遂行」、「viii 生活の再構築」の8つの構成要素が存在しており、さらに、すべてのプロセスで見られる【心理】【能力】の2つの構成要素があることが明らかになった

② 高齢者のエンパワメントの影響要因

「プロセス全体に影響を与える要因」と「プロセスの各段階に影響を与える要因」の2つに大別された。「エンパワメントのプロセス全体に影響を与える要因」は、[文化]、[物の見方・考え方・行動のパターン]、[価値基準]と[他者との相互作用]であった。「エンパワメントのプロセスの各段階に影響を与える要因」は、エンパワメントのプロセスごとに13の要因に整理された。

それらの影響要因が存在することによりエンパワメントのプロセスが漸進すると考えられた。

③ 高齢者のエンパワメントに着目した介護予防活動の評価視点

高齢者のエンパワメントに着目した介護予防活動の評価は、《④参加した高齢者個人のエンパワメントの状態を評価する》視点と《⑤高齢者のエンパワメントに影響を与える要因を介護予防活動に取り入れられたかを評価する》視点の2点から評価指標を検討する必要があることが明らかになった。

(2) 研究2

① 結果

参加高齢者のエンパワメントに影響した支援内容は、23サブカテゴリからなる【8カテゴリ】に分類整理できた。それらは【よりの

確にプログラムについて知る機会を増やしながら、参加が必要な人に対しては、地域の特性や対象者の特性にあった誘い方をしている】、【参加しやすくするために、アクセスのよさを確保し、明るく楽しい雰囲気を作っている】、【参加者が自分に対する自信を持ったり、生きがいを見つけられることをねらいに入れている】、【運動・栄養・歯科の各専門家からのアドバイスや、自己評価、さらに身体的な効果を実感させ、自分の今後の過ごし方を考えられるように促している】、【参加者が無理なく取り組めるように動機を高めつつ、自宅での運動を継続したり、自分から主治医に相談できるようになるといった、主体性を育んでいる】、【地域とのつながりを作れるようになることを意図して、他者との交流が楽しいと実感でき、参加者同士やボランティアとの交流を促している】、【介護予防プログラム終了後も、継続したいと思ったときに、それができる場所を提供している】、【参加者が安全に参加でき、かつ運営が滞りなくいくように、委託業者や地域包括支援センターの保健師といった関係者と信頼関係を構築している】であった。

② 考察

介護予防プログラムにおいて、高齢者のエンパワメントを高めるためには、地域や対象者の特性に合わせてプログラムへの参加のきっかけを積極的に作り出し、プログラム参加中は無理なく参加しながら、今後の自分の過ごし方を意識させ、自分から動ける主体性を育むことが重要であることが示唆された。また、プログラムそのものを向上させるために、関係者同士が信頼関係を構築していることが基盤となっていると考えられた。

(3) 研究3

① 結果

介護予防プログラム参加高齢者のエンパワメントの高まりは、25サブカテゴリからなる【13カテゴリ】に分類整理できた。それらは、【自己の衰えの自覚と自立した生活もしくは自分らしい生活の継続の願い】、【自己の健康生活の課題への気づき】、【スタッフ・家族の態度によって得られた安心感】、【他者との交流や生活習慣・健康に対する価値付け】、【自己の可能性と自信/身体・精神機能の改善】、【プログラム内での役割発揮】、【プログラム参加を通じて獲得された新たな役割認識】、【新たな友人もしくは共に健康づくりに取り組む仲間の獲得】、【健康行動の改善・習慣化】、【資源活用の理解・関心の高まり】、【趣味・関心の高まり】、【社会参加・まちづくり

への関心の拡大】、【生活に対する満足や家族内コミュニケーションの充実を実感】であった。

②考察

介護予防プログラムとの関連で高められた高齢者のエンパワメントは、参加の動機づけとして〈自己の衰えの自覚やこれからの生活に向けた希求〉が意識化されたことで、介護予防に取り組む必要性が促されていた。さらに、参加者同士の交流によって〈自己の課題に気づき〉、プログラム参加継続によって〈新たな価値観〉や〈自己の可能性と自信の回復〉、〈新たな友人や仲間の獲得〉などが促されることがわかった。それらの働きかけが効果的になされることによって、高齢者は、プログラム終了後も、〈自己の趣味や社会参加への関心の拡大〉や〈生活に対する充実感〉がもたらされると考えることができた。

(4) 介護予防活動を高齢者のエンパワメントを質的に評価するための指標の検討

評価指標は、〈A参加した高齢者個人のエンパワメントの状態を評価する〉ための指標と〈B高齢者のエンパワメントに影響を与える要因を介護予防活動に取り入れられたかを評価する〉ための指標の2点から整理した。

これらの指標の有用性、妥当性についての検証が今後の課題である。

<引用文献>

1) 野嶋佐由美：エンパワーメントに関する研究の動向と課題，看護研究 29(6)，453-464，1996.

2) 麻原きよみ：高齢者のエンパワメント—文化的見地からのアプローチ，老年看護学 5(1)，20-25，2000.

3) 若山好美，大岩敦子，池田由美子，他．閉じこもり予防教室が高齢者にもたらす結果について—参加者と非参加者の主観的健康感・身体・精神状態・医療費の比較から—．保健婦雑誌 33，59-67，2002.

4) 齊藤民，李賢情，甲斐一郎．高齢転居者に対する社会的孤立予防プログラムの実施とその評価の試み．日本公衆衛生学雑誌，53，338-346，2006.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

①井出成美、佐藤紀子、山田洋子、細谷紀子、岩瀬靖子、宮崎美砂子、社会的サポートネットワークの構築につながる高齢者のエンパワメントの指標の試案、文化看護学会誌、査読有、Vol. 1、No. 1、2009、3-11

[学会発表] (計2件)

①Noriko Sato、Preventive nursing for the elderly in Japan —Focus on social support networks、The 4th international conferences on community health nursing research conference、16-20 August 2009、Adelaide South Australia.

②Yoko Yamada、Characteristics of a social support network for the elderly in Japan: A comparison with Finland、The 4th international conferences on community health nursing research conference、16-20 August 2009、Adelaide South Australia.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 紀子 (SATO NORIKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・准教授
研究者番号：80283555

(2) 研究分担者

宮崎 美砂子 (MIYAZAKI MISAKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・教授
研究者番号：80239392

(H20—22年度)

時田 礼子 (TOKITA REIKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教
研究者番号：70554608

(H21—22年度)

岩瀬 靖子 (IWASE SEIKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教
研究者番号：20431736

(H20—22年度)

飯野 理恵 (IINO RIE)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教
研究者番号：40513958

(H21—22年度)

細谷 紀子 (HOSOYA NORIKO)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教
研究者番号：60334182

(H20年度)

山田 洋子 (YOKO YAMADA)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教
研究者番号：50292686

(H20年度)

(3) 連携研究者

井出 成美 (IDE NARUMI)
山梨県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：80241975
(H20-22年度)

(4) 研究協力者

三上 友紀 (MIKAMI YUKI)
千葉大学・大学院看護学研究科前期課程
大学院生 (H20-21年度)
河野 由紀 (KAWANO YUKI)
千葉大学・大学院看護学研究科前期課程
大学院生 (H21-22年度)
一色 喜保 (ISSIKI KIH0)
千葉大学・大学院看護学研究科前期課程
大学院生 (H22年度)